

## 第5回学会賞（実践部門）受賞理由

### 行橋市

#### ——運動器疾患対策の運動プログラムを、住民主体のサロン活動を基盤とした小地域福祉活動の推進のなかに展開

##### (1) 実践内容：サロン活動を基盤とした小地域福祉活動の推進

現在介護予防事業は、市町村が事業主体となって地域の特性に応じた展開がなされている。65歳以上の高齢者を対象にして、心身の機能低下を予防し健康を維持するための「一次予防事業」として、自主活動を支援し、地域サロンなど高齢者が誰でも参加できる場や機会を増やし、高齢者の介護予防の取り組みを支援するほか、日常生活に困難を生じた高齢者を対象にして運動、栄養および口腔のプログラムを実施して改善を図る「二次予防事業」を行っている。

行橋市は、大学と協働して運動プログラムである運動器疾患対策プログラムによって介護予防の取り組みを行い、介護予防プログラムを小規模福祉活動に展開させている。特に、日常生活圏域ニーズ調査に基づき、住民による自主活動の推進、福祉関係団体との協働など広範囲な活動を統合推進することによって効果を上げている。

##### (2) 受賞理由

行橋市は2009年度から2011年度まで、厚生労働省のモデル事業として、小地域における介護予防活動を実施した。そのなかで得られた成果、ノウハウを踏まえ、「いきいきサロン」に場を移し、地域との協働により介護予防活動を実践している。いきいきサロンでは、高齢者が行政区単位に公民館や集会所に集まり、レクリエーションや交流活動に取り組んでいる。サロンの運営は、地域住民を主体とする「いきいき推進協議会」が社会福祉協議会、行橋市と連携をとりつつ運営している。2011年度には、新たに9カ所の地域において「いきいきサロン」が発足し、計78カ所で実施されている。行橋市において福祉の関係者を巻き込んで医療的なアプローチによる介護予防プログラムを展開していることは、今後のヘルスサポートの方向性を指し示すものと考えられる。

多くの市町村において、介護予防プログラムを考慮した小地域福祉活動の推進が行われているが、行橋市では、日常生活圏域ニーズ調査を実施して介護予防の対象となる集団・地域を抽出し、その地域の住民に対してデータを示しながら事業への取り組みのインセンティブづくりをしている点、および社会福祉協議会と協力を得て、福祉小規模施設を利用して、運動系骨関節症予防プログラムのモデル事業を住民の自主的な地域活動として発展させ、住民の自主的な健康づくり・生き甲斐づくりが、継続的に行われている点が優れている。